家庭教育力の向上

学校・家庭・地域が連携するＰＴＡ活動を目指して

小牧市立三ツ渕小学校ＰＴＡ

１　はじめに

三ツ渕小学校は小牧市西部に位置し、校区の西側が岩倉市と接している。本校は、矢戸川、境川、巾下川の三つの河川が近くを流れており、肥沃に恵まれた場所に建っている。歴史は古く、明治７年に円通寺の境内に建てられたことから始まり、その後、昭和９年に現在の場所に小牧第三尋常小学校として開校した。そして令和５年度には創立 150 周年を迎えた。開校当初は児童数が 112 名の規模で、昭和５０年代は、700 名を超えるほどに増えたが、現在の児童数は 264 名で、３年生１クラス、その他の学年は、すべて２クラス、特別支援学級２クラスの小規模校である。

【小牧市立三ツ渕小学校】

２　研究への取り組み

（１）　米作りを通して学校・家庭・地域が連携を深める

三ツ渕小学校の特色ある取り組みとして、学校・家庭・地域が連携をして行っている米作りがあげられる。子どもは親の働く姿や助け合う姿勢を間近で感じ取り、保護者にとっても、子どもと共に体験を共有する中で、子育てへの意識が高まり、家庭での会話や関係性に良い影響を及ぼす。つまり、こうした体験は家庭の教育力を高め、子どもが社会で生きる力を育む基盤を築く重要な機会となると考えられる。

（２）　持続可能なＰＴＡ活動を目指す

三ツ渕小学校では、「持続可能なＰＴＡ活動」の視点に立ち、ＰＴＡ活動の在り方を見直している。「やれる人が　やれる時に　やれることを」という柔軟な姿勢を大切にしながら、部会組織の編成や活動内容を見直すことで、子どもにとって価値があり、保護者が無理なく参加できる仕組みに変えるよう試み、持続可能な運営を目指している。これにより、学校・地域・家庭が連携し、子どもの成長を多方面から支える家庭教育力の向上を図っている。

３　実践活動の概要

（１）　米作り活動

三ツ渕小学校の最大の特徴は、昭和 52 年から続く米作りである。学校の東側に位置する田んぼを地域から借り受け、「学校と地域が一緒になって子どもを育てる」という理念のもと、地域と学校が一体となって米作りに取り組んでいる。

６月には、地域の田んぼボランティアの指導を受け、６年生が苗分けを行い、その翌日には３年生から６年生の児童が田植えをする。腰をかがめて苗を植える子どもたちの姿は、昭和５２年当時から変わらない光景である。

田植えには３年生以上が参加し、稲刈りは全校児童で行う。１年生は６年生とペアを組み、鎌を持って稲を刈り取る。田んぼに足を取られて泥だらけになる児童もいるが、すべての児童が笑顔で取り組み、米作りは卒業後も忘れがたい貴重な経験となっている。

この米作りの活動には、保護者も積極的に関わっている。田んぼから戻る際に子どもたちの足を洗ったり、稲を束ねたりと、活動を支える中で保護者自身も汗を流し、子どもたちと共に貴重な時間を過ごしている。

【米作り　稲刈りの様子】

保護者が活動に参加し、子どもと共に汗をかき、子どもの活動の様子を間近で見る体験は、家庭教育力の向上に直結している。子どもの学びを支える姿勢や協働する喜びを共有することは、家庭内の教育力を高め、子どもの健全育成に大きく寄与する。

（２）　持続可能なＰＴＡ活動

三ツ渕小学校ＰＴＡは、総務部を含めた５つの部会で構成されている。今まで６つあった部会を令和６年度より５部会に編成し直し、部員数も減少させることで、負担を軽減するように見直しをした。しかしながら、各部会の活動は、保護者が学校や地域と連携しながら子どもの成長を支える貴重な機会であるという考え方はしっかりと継承し、子どもにとって価値がある活動を実施することで、家庭内での教育意識の向上や実践力の向上につなげることができている。各部会の取り組みは、以下の通りである。

一つ目は教育部である。教育部では、１学期に社会見学を実施している。今年度は小牧市のバスを借用し、常滑の INAX ライブミュージアムを

訪問してモザイクアートを体験した。また、１０月末に行われた学校保健委員会への参加、１月末に企画・運営するチャレンジ体験親子講座を通じ、親子で共に学ぶ機会を提供している。これらの活動を通じて、保護者自身が新しい学びに触れ、子どもと共に成長する意識が高まる。

【社会見学モザイクアート作り】

二つ目は広報部である。広報部は年２回ＰＴＡ新聞を発行している。運動会前には、保護者がより楽しく安全に観覧できるよう「ＰＴＡミニ広報」を発行し、カメラを構える位置や応援の工夫を紹介している。保護者が学校行事を主体的に理解し、積極的に関わることで、子どもとの会話や共有体験が増え、家庭内での教育的な関わりが深まる。

【ＰＴＡ新聞】

三つ目は施設部である。施設部では年２回の資源回収を企画・運営しており、保護者、教職員、児童が協力して資源を集める。この活動が長年続いていることが評価され､令和６年度には小牧市から表彰を受けた。また、花いっぱい活動では、園芸委員の児童と共に苗植えや水やりを行い、学校に四季折々の花を咲かせている。保護者が自然に触れ、子どもと共に学校環境を整えることで、責任感や協働の大切さを家庭内に持ち帰ることができる。

【資源回収】

【花いっぱい運動】

四つ目は保健生活部である。保健生活部は「守ってあげ隊」と題して年３回の下校時見守り活動を、また､「あいさつ運動」として年２回の登校時あいさつ活動を企画・運営している。保護者は必ずどちらかの活動に参加し、子どもの登下校を支える。学校の昇降口や正門に立ってあいさつすることで、子どもとの信頼関係を築き、安心感を与えている。また、通学路の安全点検や「飛び出し注意」看板の付け替え、給食試食会の企画・運営など、直接的な安全教育に関わる活動も担っている。これらは、保護者が日常生活の中で安全意識を高め､家庭内での指導に活かす重要な体験となる。

【あいさつ運動】

【守ってあげ隊】

最後に総務部である。総務部は全委員会の運営を中心に、役員選挙や対外的な業務を担っている。役員選挙は従来よりも短時間で効率的に実施できるよう改善している。また、対外活動では「やれる人が　やれるときに　やれることを」という合言葉のもと、６人のメンバーが分担して対応している。行事ごとの来賓対応では、運動会や卒業式に多数の来賓を迎えるため、教職員と協力して接待や運営を行っている。これにより、保護者は公共性や礼儀、協調性を学び、家庭教育力の資質をさらに磨く機会となっている。

【総務部　資源回収の表彰】

４　おわりに

共働き家庭の増加や社会状況の変化により、保護者が学校や地域活動に参加しにくい現状があるが、米作りをはじめとした学校行事への参加は、家庭と学校、地域の信頼関係を深めるとともに、保護者自身の学びや気づきの場にもなっている。

また、今後も「やれる人が　やれる時に　やれることを」という柔軟な姿勢のもと、無理なく参加できる環境を整え、保護者と共に子どもたちの成長を支える教育活動を推進していくことが、家庭教育力の向上にとって重要な取り組みとなる。

このように、三ツ渕小学校のＰＴＡ活動は、単なる学校支援にとどまらず、保護者が教育の主体者として子どもと向き合い、共に成長する場を提供している。各活動を通じて得られる経験は、家庭内の教育力を高め、子どもが安心して成長できる土台を築く大きな力となっている。

今後も、学校・地域・家庭が協力して取り組む活動を通じて、保護者が子どもの成長を直接支え、教育の主体者としての自覚と責任を育むことが、家庭教育力の向上に直結すると考え、家庭教育力を高める実践を今後も進めていく。